

第2章 自主を促す工学技術者キャリア教育の取組計画

第1節 取組概要

キャリア教育事業の目的は、自主を促す教育方法の工夫により、技術者としての幅広い知識と社会性を持ち、将来は社会で中心的な役割を担う高度専門技術者を育成できるキャリア教育を実現することである。キャリア教育事業の教育目標と実施内容を下表に示す。

教育目標<事項>	1年次	2年次	3年次	4年次
正規授業 自主学習意欲向上 <1.体系的な教育課程ー学習意欲の喚起, 14.GPA, 16.初年度教育>	ライフ・プランニング・シート（自己将来目標計画書）を学生が作成【新】	学習目標達成度評価シートで学生が每学期自己チェック【新】 GPAによる履修指導と将来設計支援をクラス担任が毎年実施【新】		
課題探求能力・デザイン能力育成 <3.課題探求能力, 8.双方向型学習, 9.TA, 10.SA>	基礎物理学実験・基礎化学実験で“back to the basic”理念での教材開発【改良】	専門実習・実験を学生の自主課題探求型実習・実験へ変更【改良】		企業・地域への卒論課題募集での卒業研究【既実施】
	工学デザイン実習で社会・産業実物教材で複数学科の学生がいっしょに行う体験実習を実施【新】			
工学センスの育成および企業等での実体験・コミュニケーション <1.体系的な教育課程ーキャリア教育の位置付け>		工場見学・インターンシップ(工場実習)【既実施】		長期インターンシップ【改良】
課外授業・活動 優れた基礎力を身につける学習支援 <16.初年次教育, 2.幅広い学びー基礎力, 9.TA>	補習授業の強化【改良】	エグゼクティブ・プロフェッション・インタビューで企業インタビュー・記事作成【新】		
自主学習で職業人に必要な知識・能力取得 <1.体系的な教育課程ー地域教育資源活用, 2.幅広い学びー21世紀型市民自立・学生の自主, 12.情報通信技術>		工学技術者知識講座で年間10回程度の課外講座を行い、知的財産所有制度、セキュリティ、製造物責任、リスク管理、ISO/JIS、企業倫理・技術者倫理、ビジネス・コミュニケーションなどのテーマで企業の専門家等を招聘し講義【新】		
		資格取得支援公開講座でニーズが多い資格試験の学習支援【改良】 語学や専門科目のeラーニングシステムの整備拡充【改良】		
学生支援 自主学習の動機付けおよび就職でのキャリア自己PRの支援 <2.幅広い学びー自主学習・履歴・能力証明>		キャリア・ディベロップメント証明書を工学部として発行し、学生の自己学習・活動の達成内容を証明【新】		
FD 教員のキャリア教育担当能力向上 <18.FD>		キャリア教育に関連するFD研修会を年間3回開催【新】		
学生および教職員の教育支援 <20.その他>		教育支援室の人員を増やし、キャリア・ディベロップメント証明書のためのデータ収集蓄積と証明書発行業務およびプログラム推進事務を担当【新】		

第2節 取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組を実施するに当たっての背景

宮崎大学工学部では、JABEE教育プログラムにより、技術者教育の質を高め、かつプログラム修了生が技術者に必要な基礎的な知識と能力を育てる教育を実践してきた。また、平成17～19年度には文部科学省特別教育研究経費「実践型専門技術者を育成する学部教育の充実」により、JABEE認定後の継続的な技術者教育の維持・改善に努めてきた。これら教育改善を実施後、改めて本学部の学士教育の問題点を洗い出し、課題A～Fを抽出した。これらを解決するため「学生自らが自主的に学習し、専門知識・能力の修得に加え、社会性やモラルも育つ高度専門技術者のキャリア教育」への教育改革が必要と考えた。

A	大学進学者の増加に伴い、将来の展望を描くことなく入学し、入学した学部・学科で学ぶ動機を強く持たない学生が増加している。
B	学生の多くが「受け身型の学習」に慣れ、自主的・自発的な学習の意欲が低いか、もしくは学習すべきことが不明瞭で自発的な努力対象を見いだせていない。
C	インターンシップ等が実施されているが、学生が社会や企業と接する機会が少なく、企業活動への知識や理解が乏しい。
D	専門知識・技術の習得を中心とする教育カリキュラムで、「法令遵守、倫理、環境保全、リスク管理、コミュニケーション能力、幅広いものの見方」など技術者として社会で要求される学習内容を正規授業時間に加える余裕がない。
E	課題探求型科目を各学科で増加させているが、教員が設定した枠内での実習で、課題を探求した“つもり”の学習に終わっている。
F	自主的に学んで身につけた成果が、就職活動やキャリアパスとして生かせる実感がなく、継続努力をする学生が少ない。

(2) 取組の具体的な目的

「自主を促す工学技術者キャリア教育」プログラムの主目的は、自らの学習目標を設定し、自主的に学ぶ意欲を育て、体験を通して工学技術的センスを磨き、技術者としての幅広い知識と社会性を持ち、将来は社会で中心的な役割を担う高度専門技術者を育成するキャリア教育を実現することである。

(3) 取組による達成目標

正規授業と課外授業・活動とを組み合わせた複数のキャリア教育プログラムを実施して、中教審答申第2章第2節の「学生が本気で学び、社会で通用する力を身に付ける」教育課程を実現する。具体的には、申請プログラムでは、学生が「①生涯を通じて持続的に学ぶ

姿勢を持ち、②実習・実験で課題探求の姿勢を十分身につけ、③専門知識と共に企業で必要な周辺知識を持ち、④倫理観や社会的責任の意識を有し、⑤コミュニケーションやチームワークの能力を持ち、さらに⑤積極的で自発的な行動ができる」ようになることを究極の達成目標とする。

第3節 取組の具体的内容・実施体制等

前述の A) ～F) の教育課題を解決するために、正規授業と課外授業・活動とを組み合わせたキャリア教育プログラムを計画・実施する（下図）。中教審答申第2章第2節（18頁）の「キャリア教育を、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指すものとして、教育課程の中に適切に位置付ける」との指摘に従い、大学での自主学習の習慣付けにより、就職後も能力開発を継続できるようにする。このため、課外授業・活動を重視する。

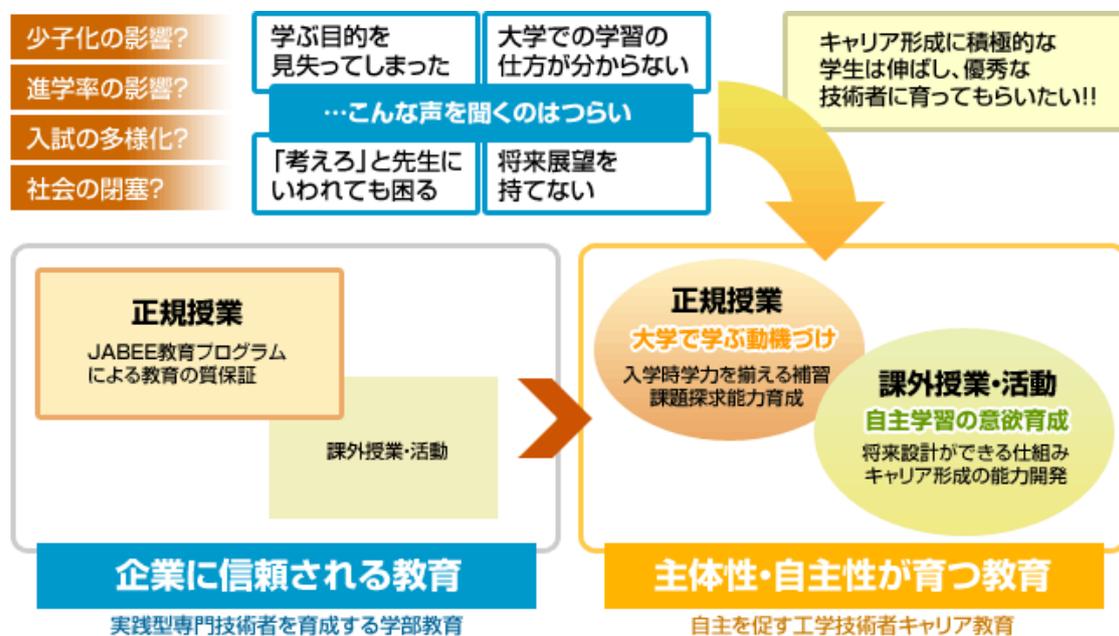


表1の取組項目を含むキャリア教育プログラムを計画する。プログラムの取組項目と様式1の該当する事項および中教審答申内容との関連を合わせて示した。中教審答申の「大学が取り組むべき事項」に対して、本学および工学部が実施してきた既存取組を対応させ、未対応の事項を中心に教育改善が行えるように、申請プログラムの中で実施する取組内容を工夫した。

表2にプログラムの教育目標、A～Fの教育課題、および実施形態をまとめ、さらに取組項目の詳細な実施方法を表3に示す。なお、申請するキャリア教育プログラムは、JABEE教育プログラムによる質の保証を重視した現行の学士教育課程の上に積み上げて、新たに実施するものである。

表1 「自主を促す工学技術者キャリア教育」プログラムの取組項目

実施する取組項目	該当する事項（答申の章節）	答申頁
①技術者としての夢を育む「ライフ・プランニング・シートと学習目標達成度自己評価シート」および「クラス担任のGPAに基づく履修指導」	1.体系的な教育課程－意欲喚起(2-2-1) 14.GPA(2-2-4) 16.初年次教育(2-3-2)	15頁 27頁 36頁
②実践的な課題解決能力とチームワーク力を育てる新たなプログラムの「基礎物理学実験・基礎化学実験」,「専門実習・実験」および「工学デザイン実習」	3.課題探求能力(2-2-1) 8.双方向型学習(2-2-3) 9.TA(2-2-3) 10.SA(2-2-3)	18頁 24頁 24頁 24頁
③企業との交流や実習を通して技術・能力を磨く「卒業研究課題募集」,「長期インターンシップ」	1.体系的な教育課程－キャリア教育の位置付け(2-2-1)	18頁
④技術者の条件を自ら考え,まとめる「エグゼクティブ・プロフェッション・インタビュー」	1.体系的な教育課程－キャリア教育の位置付け(2-2-1)	18頁
⑤高校からの接続教育を円滑にし,基礎学力に優れた学生を育てる「補習教育の強化」および「数学,物理,化学などの自主学習グループ形成」	16.初年次教育(2-3-2) 2.幅広い学び－基礎学力(2-1) 9.TA(2-2-3)	36頁 8頁 24頁
⑥専門知識・技術以外に必要な社会性や責任感を育てる「工学技術者知識講座」	1.体系的な教育課程－地域教育資源の活用(2-2-1) 2.幅広い学び－21世紀型市民(2-1)	18頁 10頁
⑦専門知識を生かしてキャリア形成を目指す「資格取得支援公開講座」および「eラーニング学習システム」	1.体系的な教育課程－学生の自主(2-2-1) 12.情報通信技術(2-2-3)	18頁 24頁
⑧自主的な能力開発を証明できる「キャリア・ディベロップメント証明書」	2.幅広い学び－自主学習履歴・能力証明(2-1)	8頁
⑨教員のキャリア教育担当能力を向上するFD	18.FD(3-1)	38頁
⑩学生支援・教育支援の事務強化	20.その他	

表2 プログラムの教育目標, A～Fの教育課題, 取組項目および実施形態

教育目標	課題	達成のための取組項目	実施形態, 対象
1) 学ぶ意義や動機を持ち, 学習目標を立てて, 自発的学習を継続する。	A, B	①ライフ・プランニング・シート, 学習目標達成度評価シートおよびGPAに基づく履修指導	教育カリキュラム中で実施
2) 企業活動や技術者に接して, 社会性を身につける。	C	④エグゼクティブ・プロフェッション・インタビュー	課外活動, 希望者
3) 技術者になるために学ぶべき素養や能力を自ら学び, キャリア形成や就職に役立てる。	D, F	②工学技術者知識講座	課外講座, 希望者
		⑦資格取得支援公開講座およびeラーニングシステム	情報通信活用教育, 希望者
		⑧キャリア・ディベロップメント証明書	随時発行, 全員
4) 課題探求型体験実習・実験への改良で, チームワーク, 創意工夫力を養う。	C, E	②基礎物理学実験・基礎化学実験(必修または選択), 専門実習・実験(必修), 工学デザイン実習	デザイン実習は集中, 他は正規時間
5) 地域や企業への理解を深め, 技術者としての社会性を身につける。	C, D, E	③卒業研究テーマ募集による卒業研究およびインターンシップ・長期インターンシップ	カリキュラム実施, 選択

※⑨教員のキャリア教育担当能力を向上するFDと⑩学生支援・教育支援の事務強化は教育目標を達成するプログラム推進を図るために必要な活動である。

表3 プログラムの取組項目の実施内容・方法

	取組項目	実施内容・方法の説明	備考
①-1	ライフ・プランニング・シート【新】	「日本語コミュニケーション」の中で、自分の将来を考え、学習設計する。クラス担任による学生個別指導の機会に見直し、学習目標・計画の立案に役立てる。	1年生、年1回見直し
①-2	学習目標達成度自己評価シート【新】	毎学期の終了後に「学習成果評価会」を学年ごとに開催する。各履修科目の自己成績評価と学習改善を学生自身が自己評価・記入したシートを提出させる。	毎学期終了時
①-3	クラス担任のGPAに基づく履修指導【改良】	クラス担任は1年に1回学生との個別指導機会を持ち、①-1や①-2で実施のシートを参考として、GPAの成績資料に基づいた履修指導を行う。	毎学年年1回
②-1	基礎物理学実験・基礎化学実験【改良】	“Back to the basic”理念に基づく実験基本操作の学習を目指し実験を改良およびビデオ教材作成などを行う。TAが個別の実験指導補助をする。	1～2年生
②-2	専門実習・実験【改良】	現行の実験・実習をさらに体系的に工学技術習得でき、かつ課題探求・問題解決能力を伸ばす実験内容に改良する。TAが個別の実験指導補助をする。	1～3年生
②-3	工学デザイン実習【新】 (各学科の選択科目1単位、工学デザイン実習IおよびIIを設定)	綿密な実験・実習のテキストは用意せず、テーマ・材料のみを提示し、チームで試行錯誤して問題解決し、体験的に工学技術センスやイメージを磨かせる。工学への意欲や専門技術の大切さを実感させる。学生は所属学科以外のテーマを選んでよい。この実習を体験した4年生がSAとして実験指導補助をする。	1,2年生希望学生 9月または3月に集中開講
③-1	長期インターンシップ【改良】 (選択科目「工場実習」の単位)	修士課程学生を対象とした長期インターンシップを、4学生にも拡大する。卒業論文研究着手者で、かつ修士課程進学希望者とする事で、卒業論文研究への影響を抑えて修士課程への継続を可能にする。	4年生
③-2	卒業研究テーマ募集による卒業研究【改良】	従来から実施している。実績件数が減少傾向にある問題を、工学部教員の技術シーズをPRして提案課題とのマッチングを図ることで改善する。	4年生で希望者
④	エグゼクティブ・プロフィール・インタビュー【新】	希望学生でインタビュー・チームを編成する。チームで企業活動や技術者の仕事についてのインタビューを実施し、内容をレビュー記事にまとめ、キャリア情報冊子やホームページで情報発信を行う。	2,3年生の希望学生
⑤-1	補習授業の強化【改良】	現在は、推薦入学で入学した学生について、数学と物理の未学習部分をそれぞれ1クラスで補習授業している。参加者が50名以上になり教育効果に限界がある。クラス数を増加し、学習レベル別のクラス分けで補習授業を強化する。また、化学でも実施する。	1年生の4～5月、希望者
⑤-2	数学、物理、化学などの自主学習グループ形成【新】	工学部共通の基礎専門科目(数学、物理、化学)を好きで深く探究したいと考える学生を募り、自主学習グループを形成する。教員とTAが学習を深める相談役・指導役として係わり、優れた基礎力を育成する。	2～4年生で希望者
⑥	工学技術者知識講座(環境、安全、倫理の学習教材開発を含む)【新】	専門知識・技術以外で技術者に必要な法令遵守、倫理、リスク管理、環境保全、コミュニケーション能力などを地域企業から招聘した講師による課外講座で、社会性や責任感を育てる。1回2時間の講座とする。	2～4年生で毎年10回
⑦-1	資格取得支援公開	学生からのニーズが多い資格試験の自発的学習の支援	2～4年生

	講座【改良】	を目的に、資格取得支援講座を開催する。年間数講座以上を開講する。	で随時
⑦-2	eラーニング学習システム【改良】	平成22年度より学生へのパソコン必携化による授業への活用を計画する。既に英語学習および一部の専門授業教材をeラーニングシステム運用している。今後、他の外国語学習システムや多数の授業での教材化を進め、自宅での自主学習を支援する。	1～4年生で随時
⑧	キャリア・ディベロップメント証明書【新】	キャリア・ディベロップメント証明書が学生の自主的な学習を促し、継続させるドライビング・フォースになる。 <u>学生生活の中で自主的努力をした知識や能力の習得の軌跡を、学部</u> の証明書として発行する制度で、就職・進学時に証明書添付により活用する。	随時発行

※【新】新規に開始するプログラム，【改良】既に実施されているプログラムを改良または学年を変更して新たに実施。

本事業は、学部全体で行う学科横断教育プログラムであり、工学部長がセンター長となる「実践教育推進センター」が下図のように企画・推進の中心的役割を果たす。地域・企業からキャリア教育に理解・支援を得るために、センターに「キャリア教育アドバイザー会議」を設置する。実践教育推進センターを Plan および Do の中心として各組織の P D C A の役割を含めた推進体制を詳しく定め、また取組の実施時期も教育効果を考えて決めている。また、表4にはプログラムの推進組織の役割分担を示す。

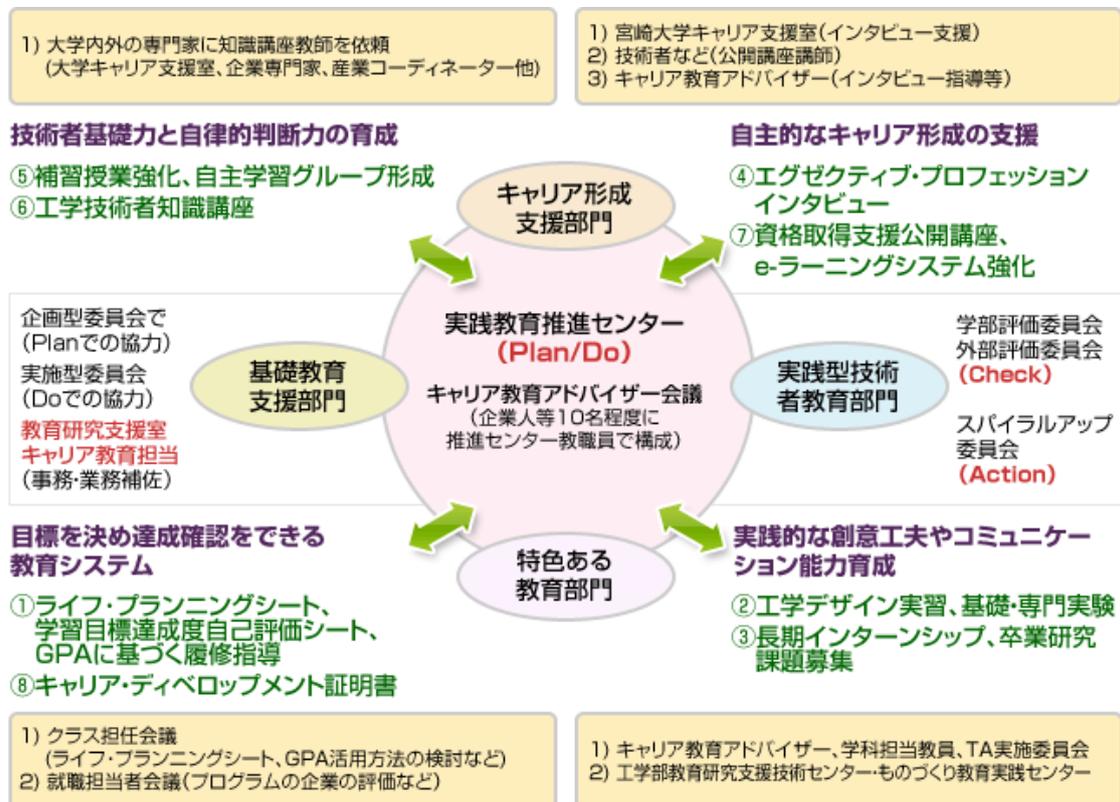


表4 プログラムの推進組織の役割

組織名	役割	役割等の説明
実践教育推進センター ・4部門【既設】	・プログラムの統括 ・プログラムの企画・推進	キャリア教育支援部門、実践型技術者教育部門、特色ある教育部門、基礎教育支援部門の4部門が協力して取組を推進する。
・キャリア教育アドバイザー会議【新設】	・キャリア教育プログラム企画・改善および参加学生へのアドバイス	企業関係者・県産業アドバイザー10名程度に依頼して、キャリア教育アドバイザーに就任願う。キャリア教育アドバイザーと実践教育推進センターを加えた会議を年数回の定例で催し、プログラムの企画・改善を図る。
教育研究支援室【改善】	・プログラム推進の事務	工学部教育研究支援室の人員の拡充を行って、プログラムの事務を従来業務に追加する。GPAやキャリア・ディベロップメントのデータなど機密性を要するので、独立サーバーを導入し、厳正に一元管理する。
宮崎大学キャリア支援室【既設】	・エグゼクティブ・プロフェッション・インタビューの支援	エグゼクティブ・プロフェッション・インタビューでの学生チームに、ビジネス・マナーの指導、インタビュー記事の作成や公開での支援を受ける。
工学部教育研究支援センター・ものづくりセンター【既設】	・基礎実験、専門実習・実験、工学デザイン実習等の技術指導・支援	工学デザイン実習等実習・実験では、センター技術職員による技術指導・支援が技術指導上効果的かつ安全上も重要である。在野の高度技術者をセンター所属の非常勤講師として招き指導願う体制を整える。
クラス担任会議【新設】	・クラス担任による学生指導のFD活動	年1回の会議をクラス担任のFDを目的の一つとして行う。学生の履修指導状況の意見交換と改善、学生の自主的な学習状況の達成度把握と改善、GPAの利用方法の改善提案などを会議題とする。
就職担当者会議【改善】	・キャリア教育の就職面での分析・評価および改善のための会議	年1～2回の会議で、プログラムの実施を就職面から分析・評価および改善を提案する。企業からプログラム内容についての評価アンケートを実施し、定量的なプログラム分析を実施する。既設組織の活性化を図る。
FD委員会【既設】	・キャリア教育に関するFD研修会の実施	教員にとってキャリア教育の内容は、専門外である場合も多く、キャリア教育に関するFD研修会を企画・開催して、プログラム実施担当教員の支援を行う。

※【新設】新規開設組織，【改善】現在の組織を変更改善，【既設】現在稼働中の組織。

第4節 取組の評価体制・評価方法

(1) 評価体制

学部内で行うP D C A活動で、評価委員会 (Check) とスパイラルアップ委員会 (Action) が、プログラムの企画・実施組織からの自己点評価書の評価・改善指摘を行う。評価・改善指摘を受け、プログラムの企画・実施組織が次年度計画へ改善を反映させる。なお、自己点検評価の評価結果はホームページで公開する。プログラム実施後の各年度末には、外部評価委員会による第三者評価を実施する。企業研究開発担当役員，都城高専校長，宮崎

県産業支援財団理事など3～5名の外部評価委員に評価を委嘱する。

(2) 評価方法

プログラムの企画・実施組織からの自己点検評価は大学の評価委員会で定めた4段階評価によって、客観的に行われる。目標の達成度が低い項目についてスパイラルアップ委員会より改善点・方向が示される。外部評価では、1) 大学側のプログラム企画・実施組織がプログラム実施報告書と自己点検評価書をまとめ、あらかじめ外部評価委員に送付して事前点検を受ける、2) 事前点検で指摘を受けた不足資料等の準備後、外部評価委員会を開催し、大学側の説明と質疑応答後に外部評価委員が評価・講評を行う、3) 外部評価委員の指摘に対して改善回答書を作成し、外部評価委員に送付して確認・了承を得る、4) 外部評価の改善内容を次年度のプログラム計画に反映させる、の手順で実施する。評価指標の項目についても、実践教育推進センター部門長会議で詳細に定めている。

第5節 取組の内容、経過、成果等の積極的な情報提供の方法

(1) 大学情報

教育内容・方法、入試情報、学位授与情報、財務・経営状況、自己点検・評価に関する情報はいずれも宮崎大学ホームページで公開している。

(2) 取組の内容、経過、成果等に関する情報提供方法

キャリア教育プログラムの取組計画・内容は大学のホームページで公開し、取組経過も「自主を促す工学技術者キャリア教育（SCE）プログラム」のホームページを作成して詳しく公表する。高等学校との連絡協議会やオープンキャンパスで本取組を広く広報する。また、毎年度の取組成果をまとめた報告書を作成し、大学内外の教育関連機関に広く配布する。

第6節 取組の実施計画

(1) 取組の全体スケジュール及び各年次の実施計画

平成21年度に申請の取組に着手し、平成23年度に全ての事業の開発・実施を終える。学生へパンフレットでキャリア教育事業の制度・内容を十分に周知徹底した後、キャリア教育プログラムへの参加を促す。学年進行の実施取組は、年度ごとに順次開始するが、前倒し可能な取組プログラムは時期を早めて実施して、模索的にプログラムの効果を検証

し、改良を図れるようにする。将来的に卒業要件単位とする「工学デザイン実習」は移行期間が必要で、初年度は単位化せずに自由参加で実施する。3年度目である平成23年度には達成手段とする全ての教育改善事項を恒常的に実施できる体制を整える。

【平成21年度】

実践教育推進センターを充実させ、キャリア教育事業の企画・実行組織の主体とする。センターを中心に以下の取組を実施する。

表5 平成21年度に実施計画する取組事項

番号	実施部署	取組事項
1	実践教育推進センター	キャリア教育事業企画案を作成し、実施分担計画を策定する。
2	キャリア教育アドバイザー会議	キャリア教育アドバイザーとして企業や県産業アドバイザーなど10名程度を委嘱する。センター長(学部長)、センター部門長およびキャリア教育アドバイザーで構成するキャリア教育アドバイザー会議を11月と3月に開催する:11月は工学デザイン実習、工学技術者知識講座の実施内容検討を主な議題とし、3月は次年度以降の実施プログラムの企画検討を行う。
3	センター・キャリア教育支援部門	ライフ・プランニング・シートおよびキャリア・ディベロップメント証明書の実施計画を立案し、年度末までに学生へ取組内容の周知徹底を行い、運用を開始する。
4	教育研究支援室	人員拡充を実施し、プログラムに関わる事務補佐を行い、独立したコンピュータサーバーシステムを導入してキャリア教育に関わるデータ収集およびキャリア・ディベロップメント証明書発行体制を整える。
5	センター・基礎教育支援部門および各学科	基礎物理学実験・基礎化学実験および各学科専門実習・実験での課題探求能力・デザイン能力育成に向けた実習・実験の改良計画を立案し、次年度からの本格実施に向け予備的な実習・実験を試みる。
6	センター・特色ある教育部門および各学科	学習目標達成度評価シートと工学デザイン実習の準備を進め、後学期に実施する。工学デザイン実習では参加学生に対し1:1に近い指導補助・相談役としてTAを各学科のデザイン実習あたり3人配置する。
7	センター・キャリア教育支援部門	工学技術者知識講座を本年度は後学期に5回の開催で実施を行う。5人の講師を招聘し、それぞれ2時間の講演を行う。
8	センター・基礎教育支援部門および特色ある教育部門	eラーニング学習システムの整備計画を立案し、授業状況をインターネットで閲覧できる機器整備を行う。システム教員にeラーニング教材開発を依頼する。
9	センター・キャリア教育支援部門およびFD委員会	学外技術士なども参加する技術者倫理FD懇話会(月1回)を継続開催し、キャリア教育FD研修会として「企業でのコンプライアンスと倫理」の内容で第3回専門職・技術者倫理ワークショップを実施する。また、工学教育協会の研修ワークショップへ4名を派遣しFD研修させる。
10	センター・キャリア教育支援部門および関	毎年継続して実施し、本年度も実施している代表的取組に以下があり、今年度は従来通り実施して、年度末に点検評価する。

	連部署 【既実施取組】	1) 学生向け公開講座「資格取得支援講座」4件 2) 地域への卒論課題募集, インターンシップ 3) 学部創立60周年記念講演会“先輩から後輩に伝える技術者のこころざし”
11	実践教育推進センター	3月末にプログラム実施報告会を実施する。また, 報告書作成を行う。自己点検評価書を作成し, 評価委員会・スパイラルアップ委員会の評価・改善指摘を受ける。

【平成22年度】

実践教育推進センターを中心にキャリア教育事業に関する以下の取組を実施する。

- 1) 昨年度までの取組事項は平成22年もそのままあるいは改善・拡充して実施する。初年度は取組期間が短く, 実施予定回数を少なくした事項は, 平成22年度から予定する回数に増やして実施する。工学デザイン実習は8～9月の夏休み期間中に行うように時期の変更をする。
- 2) GPAを工学部で独自に集計・加工できるデータ処理体制を確立し, GPAによる履修指導と将来設計支援をクラス担任により実施する。
- 3) 長期インターンシップを4年生対象に実施する。
- 4) エグゼクティブ・プロフェッション・インタビューの取組を行う。
- 5) キャリア教育事業の実施報告会を実施する。また, 報告書作成を行う。
- 6) 自己点検評価書の評価委員会評価と外部評価委員会評価を実施する。

【平成23年度】

実践教育推進センターを中心に, 平成22年度に実施したキャリア教育事業の取組事項の評価・改善点を改善して平成23年度に実施する。また, 報告会は外部からの参加者を募って公開で行う。外部評価委員会は3年間の取組を総括して評価を願う。

(2) 財政支援期間終了後の大学等における取組の展開の予定

平成23年度の申請事業の取組終了時に, 自己点検評価を実施し, 目標・計画の教育効果が未達成または不十分な事項を洗い出し, 改善策を立案する。同時に外部評価により指摘された改善点にも改善策を立案する。改善策は平成24年度以降にも継続するキャリア教育事業に反映させる。

キャリア教育プログラムの教育効果を検証した上で, 企業インタビュー (エグゼクティブ・プロフェッション・インタビュー), 社会人になるための知識講座 (工学技術者知識講座), キャリア・ディベロップメント証明書発行などを他学部へ拡大する。

取組の事務業務を主として行う教育研究支援室は工学部運営費で財政支援期間終了後も維持し、事業取組の継続性を保つ。また、全学に移す企業インタビュー、社会人になるための知識講座などの取組は全学経費から支出して維持する。また、大学教育研究戦略経費の配分を受け、アドバイザーやFD研修会経費を確保する。

第7節 取組で期待される成果

自主を促す工学技術者キャリア教育の取組を実施して、期待される成果や効果を以下に箇条書きにする。

- 1) 自主学习や主体的な取組ができる優秀な学生の育成が可能
- 2) 中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」で指摘する「学士力」の育成を達成
特に、「3. 態度・志向性（1）自己管理能力,（2）チームワーク・リーダーシップ,（3）倫理観,（4）市民社会責任, 生涯学習力」及び「4. 統合的な学習体験と創造的思考力」の育成を達成できる。
- 3) 中教審答申「「学士課程教育の構築に向けて」の大学に期待される取組の中で、宮崎大学工学部で未達成である多くの取組事項を実現
- 4) J A B E E教育プログラムを補完して強化
- 5) 工学部教育の個性化に寄与
- 6) 工学教職員のキャリア教育への意識改革と教育能力の強化（教職員FD）
- 7) 企業との教育連携及び地域での教育協力体制の強化